

●京都子どもの水辺 19 日 (土) さくら出会い館 第 34 回京都木津川マラソン大会を翌日に控えて前日準備の今年の 2 月 4 日が第 10 回近畿子どもの水辺神戸大会があった。会場は三の宮駅から山手にある県民会館であった。会場説明に訪れて以来、2 回目の訪問であった。マラソン大会の皆さんには、行ってきなさいと理解を得て参加した。次年度の開催は河川財団からの助成金が打ち切られたので、今年は、10 回目で最終回となったからである。10 年間の開催で川に関心を持つ大人の交流も随分と深められた。京都府の南部以外の川関係の知人などを私はこの取り組みを通じて多くの情報をえて、人々と顔見知りになった。もちろん出席して発表する子どもたちは、さらに多くの子どもたちと交流が深められたことであろう。この大会が開催されなくなってしまうことは、本当に悔しい思いである。このままにしておいてはいけなと、新年度(17 年)は京都での取り組み開催を決意した。そして 8 月 19 日開催として準備を進めた。従来の若手学生諸君、小林君、北野君に呼びかけ取組みを進めることになった。

この中で前川勝人さんと出会い、会場準備から全体の準備計画や運営など一切を引き受けて軌道に乗せることができる助っ人を得ることができた。

そして 8 月 19 日当日を迎えた。午前 8 時には主な世話人が勢ぞろいできた。見事に体制が整った。順調に無事故でやつつけ本番だったが、完全に大成功した。なんと総勢 67 人の出席を得たのである。午後からカヌー体験などの取組みは、水位の上昇によって開催が不可能となった。それにも関わらず全取組みを完全に進行させ、見事にまとめ上げることができて、世話役の皆さんも出演発表された皆さんも大満足の日となった。アンケートでは、無理もあるが是非とも来年も開催してほしいとの声が大きくなっていた。

●第 6 回親子で遊ぼう学ぼう魚とり 山城大橋東 44 人の参加 翌日の 20 日は第 6 回の魚とりの開催である。2 日連続の大きなイベントが続きました。前日の取組みで大奮闘してくれた福井さんから「夜おばあちゃんが負傷したので、欠席する」という知らせが朝一番に飛び込んできた。木津川の水位と水量の状況は、いい状況ではなく開催にかなり躊躇した。それでも連続した取組みにもかかわらずスタッフの面々はやる気満々です。全員が 8 時に集結してきた。早速現地調査を長谷川さんや前川さんをお願いし、先発の現地視察に加わってくれた森島さんの報告をもって、開催を決定した。参加予定者は 50 名を超えていた。スタッフ全員のもとで、開催決定を再確認した。くれぐれも安全面に注意を呼び掛けた。開会挨拶に引き続き、学ぼうのコーナーでは、木津川の長さや起点の場所や川幅は幾らと質問を行って、参加者全員が仲間だという意識を持ってもらうよう話を進めた。頃合いをみて、長谷川さんから川の現状と注意点・危険な場所について、と安全確保に万全を期してほしい、と繰り返し強調された。ライフジャケットの装着点検を済ませて、約 1 時間の魚とりを開催。捕獲できた魚の集計では、今年 2 番目の捕獲数となる 229 匹でした。昨日、中栄君から頂いた大きなスイカを深田さんが冷やして持参いただいたので全員で賞味しました。引き続いて保護者が下流で見守り、約 30m の川流れを体験しました。最初は流水に乗れず、途中で立ち上がってしまう人もたくさんありましたが、2 回目 3 回目と回を重ねると要領が分り、誰もが水の流れに乗って流れるようになりました。すっかり水のとりこになりました。わずか 1 分少々の体験を重ねるだけで見事に上達しました。6 回目という人も出てくるなど随分楽しい時間を過ごしました。

●大聖牛設置の取組報告 竹蛇籠の編み方を試行 22 日(火)10 時から 17 時

深田、有田、青大、森島、近藤、山村が参加しました。熱中症を心配しながら大苦戦の連続でした。10 月に実施する水制構の設置に向けて最も力(技術力・指導力)が必要となるのが竹の伐採と竹割作業です。そして竹の編み上げ作業・蛇籠づくりです。前回の初日では 100 人が 7 班に分かれて終日取り組みましたが、3 本の蛇籠を作り上げるのが精一杯でした。頭で理屈を理解しても大物の蛇籠となると勝手が違います。今回の聖牛 1 基に 9 本の蛇籠が必要となります。3 基の設置を計画しているので 27 本の蛇籠が必須です。2 年前の経験では 100 人が一日で 3 本がやっとでした。従って相当スピードを持った作り

上げが要求されますので、以前の繰り返しでは、とても間に合いそうにありません。全体計画の中で、里山の会が竹蛇籠の製作予定担当らしいので、事前の試行を行うに当たり、机上で小型モデルの組立の練習を1時間行って、しっかり手順を飲み込んだつもりで竹を実際に使って組立を試みましたが、なかなか思うように完成までこぎつけることはできませんでした。暑さに耐えて、何回も失敗しながら得た教訓は、正確で均一品質の資材を使用すること、組立にあたっては、できるだけ手順をしっかりと各人が要領を飲み込む以外に道はないことを痛感しました。10月6・7日に予定している蛇籠づくりまでには、あと数回のチャレンジが必要だということもわかりました。かなり難しいものです。

●竹蛇籠の視察に岡山から15名来所 23日13時 案内：深田、森島、青代、山村が対応

突然のにか雨の中、視察される。午後1時に飯岡の設置場所に到着、設置されている木津川左岸15.2kmに向かいました。バスを降り始めると西の空が暗くなり雷が聞こえてきました。パラパラと雨が降り始めました。50mほどの距離を進み現地に到着した途端にさらに強烈な雨に変わり、雷鳴が頭上でとどろきわたり、すごい勢いをました雨が降り注ぎました。ズボンも靴もびしょ濡れです。こうなると蛇籠を見ている間もなく、見学をそこそこにバスに戻りました。用意してきた資料をできるだけ簡単に説明、完成した直後の写真を見ていただき、2年後の現物との比較を行っていただきました。加えて竹の切り出しの苦労、そして8mの竹割作業に必要な体力の継続は。高齢者には厳しい作業だと説明、ここで同志社大学の学生の強力な応援があって、成し遂げられたことなど体験を語りました。予期しなかった激しい雨で十分な説明ができませんでした。皆さんは河川改修が終わって自然に優しい川への復元を目指して知恵を出してあっておられるとのこと。竹蛇籠の取組みを知って、いい川づくりに役立てたいとの目的で来られたとのことでした。

●里山農園に3回目のイノシシ侵入 地元の水取や天王では出沒が頻発し農作物に大きな被害が発生しているらしいです。里山農園ではナラ枯れ木の倒壊によって防御策が壊されているので進入が容易にできて、オクラを壊滅的に掘り返されました。次はサツマイモを狙っていると思われます。早期の修復が必要です。大村さんなどが愛情をこめて栽培にあたっておられますが、被害を最小限に抑えようのご苦勞をいただいています。

●第7回親子で遊ぼう学ぼう魚とり 26日(土)

集合 9:00 集合場所は京田辺市草内 運動公園駐車場（山城大橋西詰下）、今年最後の取組です。多くの皆さんの参加を期待しています。定員は親子組50組ですが現在余裕があります。希望者は当日9時には到着してください。熱中症対策を十分をお願いします。帽子・水分補給、魚とり用網(昆虫用ではダメ) 時間が来れば移動【車で4分】します。時間厳守ください。

●第21回里山講演会にご参集ください

京田辺市中央公民館(市役所の向い) 9月2日(土) 13時開場 13時30分開演 16時30分終了
講師は近畿地方整備局淀川河川事務所副所長白波瀬卓哉氏とびわこ成蹊スポーツ大学教授の西野麻知子氏にお願いしています。

演題は「イタセンパラのこれから」(白波瀬氏)、「里山活動に期待するもの」(西野氏)です。

●里山の会は、これまでの20年間木津川堤防の植物調査を実施。そして現在100か所以上に希少植物の生育を確認しています。これらのデータを集約し、木津川の草花や木津川の花ごよみ、木津川生育植物標本写真集を発刊しました。また木津川読本「木津川はどんな川」を編集し、南山城地域の77小学校に寄贈し、木津川についての正しい知識の普及に努めてきました。8月21日国交省淀川河川事務所が希少植物の調査活動業務の公募を発表。これを受けて事務局会議で検討の結果これに応募を決定。私たちがこれまで20年間積み上げた経験と資料が役立つ時を迎えました。長年の努力が実を結ぶことになるのです。業務契約が成立することに大きな期待をしています。